

2018年5月13日

バイブルメッセージ

何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。
(ヨハネの手紙一 5章14節)

今日は福音書ではなく、ヨハネの手紙に書かれた言葉に目を留めたいと思います。といいますのも、この箇所は桃山基督教会の2018年度年間聖句であるからです。

この言葉ですが、ともするとわたしたちの願いを神さまは何でも聞いてくれると勘違いしてしまうかもしれません。そして実生活で自分の思った通りにならなかったときに、つい神さまに不平不満を言うてしまう。そのようなことはないでしょうか。

聖書をもう一度よく読んでみると、「神の御心に適うことをわたしたちが願うなら」という言葉がついていることに気づかされます。何でもかんでも聞き入れられるというわけではないのです。

ここで一つの詩を紹介したいと思います。この詩は、ニューヨークにある病院の壁に、誰かが書き残した詩です。入院患者かもしれないその人は、神さまに対してこんな思いを書きました。

**何かをなしとげたいと 神に強さを求めたが
謙虚になるようにと 弱さをさずかった**

**大きなことがしたいと 健康を求めたが
よいことをするようにと 病をさずかった**

**しあわせになりたいと 豊かさを求めたが
賢くいるようにと 貧しさをさずかった**

**人からほめられたいと 力を求めたが
神を求められるようにと 弱点をさずかった**

人生を楽しみたいと

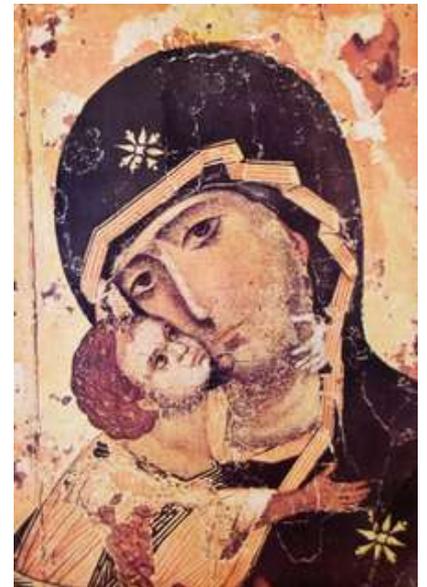
あらゆるものを求めたが
あらゆることを
喜んで受け入れる人生をさずかった

求めたものは
何ひとつとして与えられなかったけれど
ほんとうに望んでいたことは
すべてかなえられた

わたしの願いをはるかにこえた
言葉にはならなかった
祈りが聞かれていたのだ
わたしは あらゆる人のなかで
もっとも豊かに祝福されていた

目の前のことだけを見るならば、彼の求めることは何一つとして適えられることはありませんでした。しかし神さまは自分を祝福してくれていた。そのことに気づかされたのでしょう。

神さまのみ心、それはわたしたちにはわかりません。でも神さまはわたしたちを愛してくださいます。だからわたしたちを、決して見放すことはありません。そのことを信じ、歩んでいきたいと思います。



桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>